

- ザクラは丸みを帯びるがその中間形を示す(図1)
- ・タカネザクラの萼裂片は全縁鋸歯は時に1つ、一方
 チョウジザクラは縁毛と鋸歯、鋸歯の先端に腺が
 あるがエボシザクラは縁毛は少なく、鋸歯に腺が
 ない(図2)
 - ・花柱の毛はタカネザクラは無毛、チョウジザクラ
 は花柱の基部(1/4~1/2)に多数の開出毛を散生す
 るがエボシザクラは無毛時に1~2(5)本の開
 出毛がある(図2)
 - ・葉長と葉柄の関係(図3-(1))はチョウジザクラ
 は葉長が長く葉柄が短い、タカネザクラは葉長
 は短く葉柄は長い、その両方の形質をもっている
 - ・葉長と葉幅の関係(図3-(2))はチョウジザクラ
 は長くて幅広いが、タカネザクラは短くて幅も狭
 いエボシザクラは両種の形質がでている
 - ・花弁長と萼筒の長さの関係(図3-(3))はタカネザ
 クラは萼筒に比べて花弁は長く、チョウジザクラ
 は萼筒は長く花弁は短い、その中間にエボシザ
 クラがある。
 - ・萼筒の長さと萼裂片の長さの関係(図3-(4))は萼裂片
 はほぼ同長であるが萼筒の長さはチョウジザクラ
 は長く、タカネザクラは短い。その中間にエボシ
 ザクラがある
 - ・葉の葉柄につく蜜腺の位置はチョウジザクラは葉
 柄上部に22%、葉の基部に46%(32%は蜜腺は1,
 3,4個で不規則)、タカネザクラは葉柄上部69%葉
 の基部5%(26%は蜜腺1,3,4個で不規則)、エボ

シザクラは葉柄上部37%、葉の基部5%でやはり
中間形を示す。

その他各部の測定結果をまとめると表1の如くで
ある。

オクチョウジザクラをエボシザクラと比較すると、
オクチョウジザクラは長野県では北安曇郡白馬村、
小谷村・飯山市・下高井郡野沢温泉村方面に自生し、
中信地方には分布していないこと、花が大きく、萼
筒の基部はやや細まること、通常花柱は無毛であり、
葉柄、小花柄、葉の両面に毛の少ないことでエボシ
ザクラとは異なるものである。

なお本県の御岳の山地、下伊那・上伊那の山地、
岐阜県飛騨の高山地方の山地にはチョウジザクラ
の標準型と少し異って全体に毛が少なく、萼筒も基
部が少し細まるものがチョウジザクラより高海拔域
に生えており、久保田氏はこれをチョウジザクラの
深山型としてミヤマチョウジザクラ(*P. apetara*
var. monticola, *var. nov.* 未発表)と仮称して
いるが、中信地方にこの型のものが分布しているか
は今後更に精査する必要があると書簡で述べている。

エボシザクラの和名は小字名をとり、学名は地域
名をとって、*P. misayamaensis* Okuhara et
Matsuda とした。

標本は長野県植物誌作成資料として信大教養部標
本庫(Na 8487, 8488)に納めた。1部は科学博
物館に納める予定である。

表1 各部の平均の長さと割合の比較

	萼筒長	萼裂片長	雄ずい 本数	柱頭長	花弁長	花弁幅	葉柄長	葉長	葉幅	葉長 葉柄	葉幅長 葉柄	葉長 葉幅長
タカネザクラ	7.4	3.7	28.7	12.1	9.3	7.0	11.9	6.1	3.4	5.1	2.8	1.8
エボシザクラ	8.8	3.7	33.3	11.2	7.8	6.8	10.4	7.0	3.8	6.7	3.7	1.8
チョウジザクラ	10.3	4.1	31.8	11.0	7.7	5.8	6.3	8.3	4.2	13.0	6.6	2.0

- 小泉秀雄 1926 史蹟名勝天然記念物調査報告
第4輯 保護すべき千曲山脈の遺存寒地帯
403~557
- 久保田秀夫 1974 日本のサクラ 誠文堂新光社
—— 1977 ハケ岳山麓のサクラ 長野県植
物研究会誌 第10号 124~127
—— 1978 サクラノート 北陸の植物
Vol. 25 No. 4, 240~242
—— 1980 日本の野生のサクラ 花の友
No. 8, 19~23
- 大井次三郎 1972 日本植物誌 増補改訂版

〔植物ニュース〕54. シロオオバコ *Plantago*
asiatica L. f. *ochranthera* Mizushima

昭和56年の運動会の頃、グラウンドのオオバコに紫
と白色の葯の二型のあることに気づいた。葯の薄藤
色のものをオオバコ、黄白色のものをシロオオバコ
といい、水島(1967)によって報告(植研42:181)
されている。シロオオバコは長野県下では、初記録
であるが、各地にあると思われる。

御教示下さった高橋秀男氏に感謝します。

採集地：諏訪郡富士見町富士見 (横内文人)